



「筋ジストロフィー児童生徒の自己効力感を高める インターネットを活用した病弱特別支援学校の実践—学習・交流・就労—」

北海道八雲養護学校



ねらい・目的

本校は、呼吸管理などで高度かつ先進的な医療技術を持つ国立病院機構八雲病院に併設で、主に筋ジストロフィー（以下、「筋ジス」）児童生徒と重症心身障害児童生徒が在籍する、病弱者の教育を主とした特別支援学校（小学部・中学部・高等部）である。とくに、筋ジス児者においては近年、鼻マスクを使用する非侵襲的人工呼吸療法等の普及など医療の進歩により、生命時間の大幅な延長が可能となりつつある。そのため、卒業後を見据え、いかに充実した人生を過ごすことができるかが大きな課題となっている。

また、筋ジスの病気の特徴である、進行性ゆえの運動機能障害の重度化や生活する上での困難さが徐々に出てくるが、本校児童生徒はインターネットを日常的に活用し活動の幅を広げ前向きに進みつつある。そのような状況で、ICF（国際生活機能分類）における環境因子を向上させることが、活動・参加をより拡大すると考え、インターネットを活用した学校教育環境を整え、本校児童生徒の自己効力感を高めることをねらいとした。



内容

(1) インターネット環境の構築

- ・学校と病院双方でインターネットを使用可能にする。
- ・インターネット回線の無線LAN化をし、それぞれの使用しやすい環境でインターネットができる環境の構築

(2) 本校WEBページの活用

- ・WEBページの更新率の向上
- ・ブログ形式による「校長室だより」の運用
- ・併設病院との協働による就労支援プロジェクト「コレクトスペースSUNSUN」

- ・併設病院との協働による車いすスポーツ「スティック部」

- ・北海道留寿都高校との交流日記

(3) 大学等との連携によるインターネットの活用

- ・東京大学先端科学技術研究センターとの支援技術インターネット電話サービス会議
- ・千歳科学技術大学との高大連携によるeラーニングシステムの活用
- ・大学受験に備えた予備校のブロードバンドネットの活用



実践結果（今後の課題）

(1) インターネット環境の構築

本校児童生徒はほぼ全員併設病院に長期入院をしており、学校と病院は廊下でつながっている。しかし、本校が接続している「ほっかいどうスクールネット」と病院のネットワークは異なり、通常では接続できない。学校で校舎改築に合わせ、無線LAN化することができたため、無線LAN付属のネットワーク切替ソフトなどでシームレスにインターネットが使用できるようになった（写真1）。おおよその児童生徒は自前ノートパソコンを用意できたが、持っていない児童生徒用にノートパソコン20台を貸し出し、使いたい児童生徒



写真1・無線LAN化で学校・病院を結ぶ



写真2・児童生徒の姿勢にあわせた机でパソコン活用



写真3・インターネット電話サービスによる会議

がいつでもどこでも使える環境を構築できた。

このことにより、それぞれの児童生徒の姿勢にあわせた机の上で授業等で活用できた（写真2）。また、同時期に導入されたサーバーを用いファイル共有サーバーを通して、手指機能が低下し教科書等の資料をめくることができない生徒がパソコン上で資料を見ることができるようになった。下校後まもなくベッドの上に上がる児童生徒にとって就寝までのひとときをインターネット電話サービスやメッセージといったもので病棟を超えて話し合うことも日常茶飯事となっている（放課後に学校にいたことが時間的に難しいため、生徒会や各種企画などの話し合いもしている）。

(2) 本校WEBページの活用（資料）

WEBページは従来更新率のあまりの低さに誰も見ないものになっていた。そこで今日起こった出来事を写真でとにかく伝えようとほぼ毎日の更新を欠かさず行った。更新率は80%以上を維持し現在に至っている。

その結果、児童生徒も毎日見てくれている様子である。また、全道各地から児童生徒が本校には集まっているが、遠隔地にいる保護者からも評判が広まるようになってきた。CGIによるブログ形式のトピックスにしてから、どこからでもアップできるようになり速報性を向上させることができた。生活規制があり、外に出て情報を発信するという考えも今まではなかったが、WEBページの更新率の高さを児童生徒も目の当たりにし、自分たちも何か情報発信しようとブログを立ち上げる生徒も出てきた。普通学校の児童生徒であれば、当たり前のできることを本校児童生徒では困難な

ことも少なくない。そこで今まではあきらめていたことも、WEBページの更新という一見するとたいしたことではないように見えるが、そうした情報発信をするという姿勢を見せる重要性を教えられた事例といえる。

併設病院との協働による就労支援プロジェクト「コレクトスペースSUNSUN」や車いすスポーツ「スティック部」も本校WEBページから情報発信している。就労支援プロジェクトでは今まで筋ジスで一般就労や在宅就労がなかなか困難なことから、学校と病院作業療法室を中心とした協働で、「仕事をしよう」というなかで生まれた。

また学校でも人気NO.1の車いすスポーツも卒業生や患者さんとともに「みんなでスポーツをしたい」「呼吸リハビリテーションになる」ということから学校と病院理学療法室を中心とした協働で「スティック部」が創設され、夏から秋にかけて「スポーツリーグ」を土曜日に行っている。これらの活動に対する児童生徒の関心は高く、卒業後の見通しを持たせる一助となっている。

北海道留寿都高校との交流日記も本校児童生徒が相手校に行って交流することが難しいだけに、CGIによる掲示板による交流日記は継続した交流に役立っていると考えている。

(3) 大学等との連携によるインターネットの活用

東京大学先端科学技術研究センターとの支援技術インターネット電話サービスによる会議を毎週木曜日にビジネス基礎の授業の一環として行っている。インターネット電話サービスを用い、テレビ電話を東京大学と八雲をつなぎ、支援技術について当事者の立場から会議に参加している（写真3）。



また、千歳科学技術大学との高大連携によるe-ラーニングシステムの活用をし、主に自学自習の一助としている。その他、大学受験に備えた予備校のブロードバンドネットを活用し学習補助している。特別支援学校だから大学受験ができないなどという不安を少しでもなくせるようにしている。

- ・併設病院との協働が不可欠で、学習、就労、交流などさまざまな分野で連携している。
- ・児童生徒にとってパソコンは必要不可欠なツールである。
- ・自己効力感を高める努力が必要であり、病気の特徴から自尊感情など低下する傾向にある。

PR (特徴・工夫・努力した点など)

- ・本校は、呼吸管理などで高度かつ先進的な医療技術を持つ国立病院機構八雲病院に併設で、主に筋ジストロフィー児童生徒と重症心身障害児童生徒が在籍する、病弱者の教育を主とした特別支援学校である。

備考 (実践の参考となる公開中のHPアドレス、写真、資料等)

北海道八雲養護学校

<http://www.yakumoyougo.hokkaido-c.ed.jp/>
ベッドの上からでも学校祭を企画

<http://www.microsoft.com/japan/enable/casestudy/yakumo.mspx>